

I

- 問1 (1) スペイン継承戦争に際して、神聖ローマ皇帝を助け、皇帝から王号を認められた。
(2) ダンツィヒ
(3) 西ドイツはブランド首相のもとで、それまで対立していたソ連・東欧諸国との関係改善を図る東方外交へと外交政策を転換させた。その一環としてポーランドと国交を正常化し、オーデル=ナイセ線をポーランドとの国境として認めた。
- 問2 (1) イギリスは、東インド会社に統治を委ねていたが、インド大反乱が発生すると東インド会社を解散し、インド省を設置して直接統治を行った。
(2) 工業化の進んだ北部諸州は、イギリスへの対抗から保護関税政策を求め、西部への奴隷制拡大に反対した。黒人奴隷を用いたプランテーションで綿花を生産してイギリスに輸出していた南部諸州は、自由貿易と奴隷制拡大を求めた。
- 問3 a-2 b-3 c-5
問4 (ア) 9 (イ) 8 (ウ) 4 (エ) 3 (オ) 7
問5 4→2→3→5→1

II

- 問6 私貿易を禁止して朝貢貿易に限定する海禁政策をとっていたが、国際商業が繁栄する中、後期倭寇による密貿易が活発化した。
- 問7 (1) (ア) 5 (イ) 3 (ウ) 7 (エ) 4 (オ) 2
(2) コーカンド
- 問8 2
問9 a-5 b-1
問10 国際連合成立時、中華民国が原加盟国であった。内戦に勝利した共産党が北京で中華人民共和国を建設すると、中華民国は台北に政府を移したが、代表権は維持された。1971年に北京の政府の代表権が認められ、台北の政府は追放された。

III

- 問11 4
問12 (1) 穀物の強制徴発や全工業の国有化などの戦時共産主義にかわって、強制徴発を中止し、中小企業の私営を認めるネップに転換した。
(2) 即時講和を訴えたソヴィエト政権に対し、ドイツはブレスト=リトフスク条約で講和したが、協商国のイギリス・フランスは対ソ干渉戦争を起こした。
- 問13 東欧・南欧や、とくに日本などのアジアからの移民を減少させた。
- 問14 (1) 1
(2) (ア) 0 (イ) 5 (ウ) 2 (エ) 3
- 問15 (1) 冷戦終結後のグローバル化進展を背景につくられたWTOは、暫定的な協定であったGATTと異なり、貿易紛争の調停能力をもつ国際常設機関となった。
(2) a-3 b-1 c-4
- 問16 (1) 5 (2) 5
問17 a-4 b-9 c-3
問18 a-4 b-2 c-3